

四十二年九月

体刻刺病隘内台号天  
儿在口智也馆事 馆报  
告

外務省

3-2627

0263

明治四十三年九月二十日

第 21657 號

第 21657 號

45/9/20

新開掲載

明治四十三年八月三十日

在バタビヤ

領事 深谷成章



外務大臣伯耆小村寿太郎殿

虎列刺豫防に關スル件

明治四十三年九月二十日

報告課長

昨年九月島地、初マテ虎疫發生、

東漸次川哇全島ニ漫延シ今尚

ホ全滅ニ至ラズ者市ノ如キモ日々十名

外、新患者ヲ發生シ殆コト何時

息滅スルヲ測知スル能ハザルノ状態ナル

ヲ以テ之カ豫防方法ニ就テハ官民ノ共

ニ講究ヲ怠ラザルナリレガ今因テ

送ネーランド試ニ總督府ノ許可ヲ得テ

本月初旬以來一般人民、希望ニ依

リ虎列刺豫防液ヲ注射スルコト、ハ

成事及本官ノ信ズル一業医ニシテ液

ノ注射ヲ受ケタルモノ、説ニ依ルニ後豫防

液ニ種痘菌ト同ジク第ニ刺病毒

ヲ精製シ *Charala Vaccine* 稱ス

英領事及在該地人作之ヲ種痘

試ニ好結果ヲ得タルモノニシテ大人一人

ニ付十一センチメートル立方ノ分量ヲ一回

九  
官報掲載

第 門 第  
項 號

明治四十三年九月二十日

在バタビヤ日本帝國領事館

注射スル片に少クハ一ケ年を病後感に  
 染ラズルハコトヲ得ニ注射後二十四時  
 以内は多少發熱又ハ不快感ヲ有  
 スキモ注射後若干時ヲ経過スレバ一  
 般ノ動作ニ何等支障ヲ感ゼズ  
 記スラント遂ニ開業以來續々其事  
 以テ三週間ニ其注射ヲ受ケタル  
 者政務人員百八十名士人四百七  
 五名計千三百五十五名、又ハ連  
 一一般人民ノミナラズ当地ニ在  
 師ニ亦進テ其注射ヲ試シ其有  
 知無害ヲ主張シワ、アル由ニ有  
 於ケル病列刺預防液ノ注射ハ今

在バタビヤ日本帝國領事館

田が初回ニ有シ其効果、如何ニ未  
 ダ知ルカラス義ニ有シテ一考存ニ是  
 ニ依リテ病後ノ漫延ヲ預防スルヲ得バ  
 任氏ノ幸甚之、追キカト病後感  
 右中未ダ有シ且其後亦如何